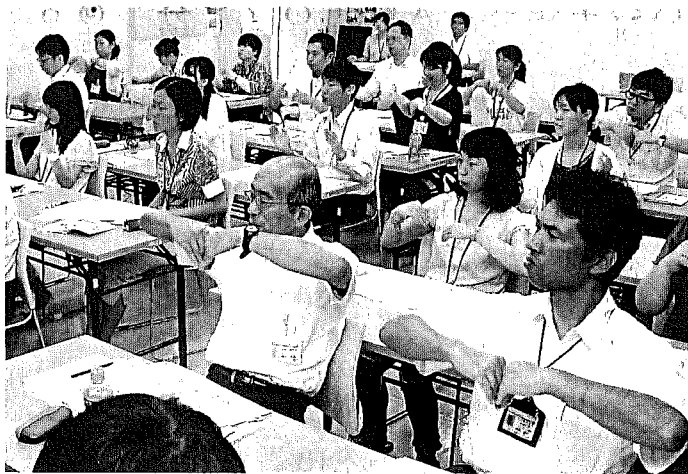


市職員が手話の基本学ぶ

8～9月190人が研修へ



手話の基本を学ぶ市職員
＝中崎1

明石市職員が手話の基本を学ぶ研修会が19日、市職員研修センター(中崎1)であり、新人から管理職まで37人があいさつや自己紹介の方法を学んだ。障害者が円滑に意思疎通できる社会の実現を目指す「手話言語等条例」の施行に伴う事業で、8～9月に同内

容の研修が5回行われて約190人が参加する。

参加者は聴覚障害者の生活を紹介するドラマを鑑賞した後、五十音を表現する指文字や「山」「川」など名前に多い漢字を表す手話を確認し、互いに自己紹介。講師を務めた明石手話通訳者協会の井

上幸子さん(64)は「手だけでなく口も動かせば伝わりやすくなる」などとアドバイスした。

財務部市民税課の梅田研二さん(23)は「あいさつだけでも覚え、窓口を訪れた聴覚障害者の不安を取り除きたい」と話した。

(井原尚基)